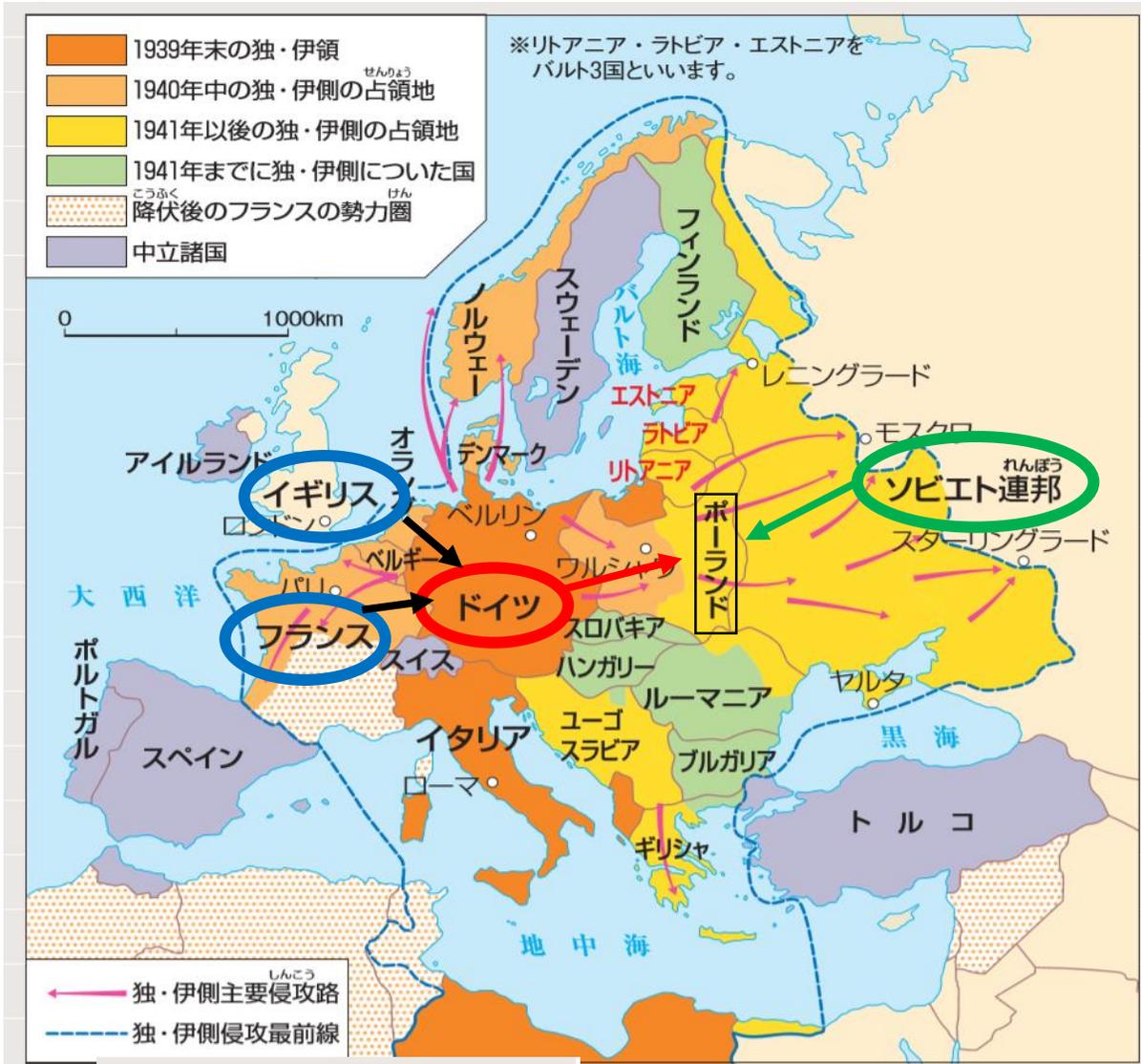


第二次世界大戦



② 第二次世界大戦中のヨーロッパ

ヨーロッパでは**ヒトラー**が**ドイツ**の領土拡大を進め、オーストリアやチェコスロバキアの一部を併合
イギリス・フランスはドイツともめたくないの
見過ごしていた



さらにドイツは1939年にソ連とのあいだに
独ソ不可侵条約を結んで、ソ連とともに
ポーランドに侵攻。
このためポーランドの領土は二つに分割された。

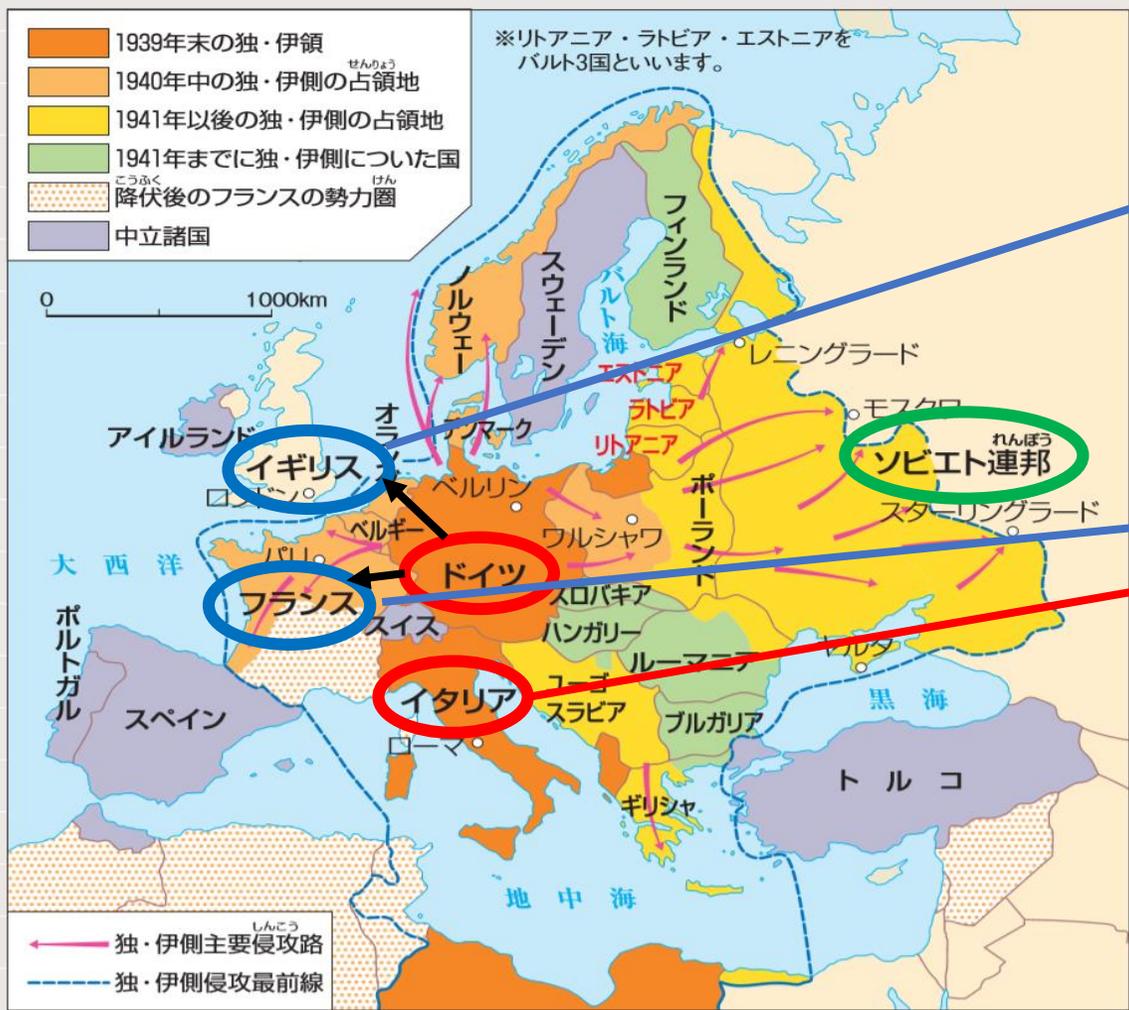


ポーランドと同盟を結んでいたイギリス・フランス
はついにドイツに宣戦布告



1939年 **第二次世界大戦**が始まる

優勢だったドイツ軍

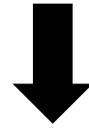


③ 防空壕でドイツ軍の空襲をさけるイギリスの子どもたち(1940年)



① 占領したパリの凱旋門前を行進するドイツ軍(1940年)

1940年になるとドイツはフランスを降伏させ、イギリスにも激しい空襲を行った。戦いはドイツ軍の優勢で進んだ



このころ、イタリアは、ドイツ側に立って参戦した

ドイツの占領政策



④ アンネ=フランク (1929~1945)

ユダヤ人のアンネとその家族は、迫害からのがれるために屋根裏部屋にひそみました。2年後にナチ党に見つかり、収容所に送られたアンネは、15歳で亡くなりました。ナチ党からのがれる日々を記した日記は有名で、ユネスコ記憶遺産に登録されています。



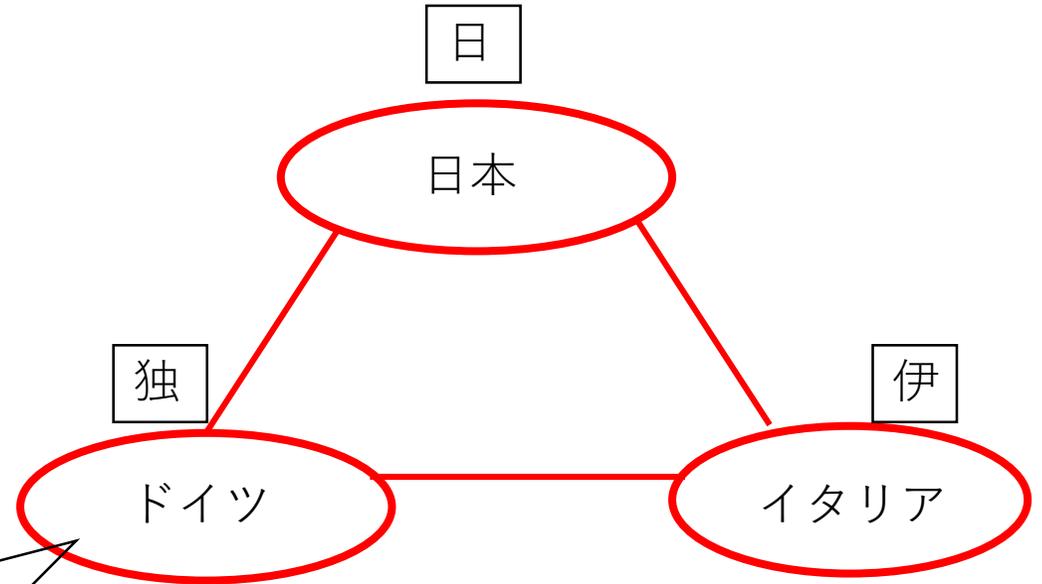
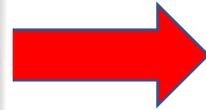
⑤ アウシュビッツ第二強制収容所 ナチ党がポーランド南部につくった収容所で、同じあやまちが二度と起きないようにという願いをこめて、世界遺産に登録されています。 **世界遺産**

イギリスを除くヨーロッパのほとんどを支配下においたドイツは戦争に必要な食料をうばって、強制的に工場で作らせ、ユダヤ民族の絶滅をはかって数百万人の人々を強制収容所に連行し殺害するなど、過酷な占領政策を行いました

枢軸国の方針

〈三国同盟〉(1940年)

- 一 日本は、ドイツおよびイタリアのヨーロッパにおける新秩序ちつじよによる社会建設の指導的地位そんちようを認め、これを尊重する。
- 二 ドイツおよびイタリアは、日本の大東亜だいとうあにおける新秩序による社会建設の指導的地位を認め、これを尊重する。
- 三 三国は、相互そうごに援助えんじよすべきことを約す。



⑦ 日独伊三国同盟調印の祝賀会(1940年)

これで日本と協力してソ連を挟み撃ちができるぞ。
独ソ不可侵条約なんて破ってやる。

■ムッソリーニは、1936年に、イタリアとドイツがこれからの国際関係の枢軸(ものごとの中心の意味)となると演説しました。これ以後、ドイツ・イタリアの陣営が、枢軸国じんえいとよばれるようになりました。

ファシズム政策という共通点があった日本・ドイツ・イタリアは他国を侵略するためにお互いが協力することで意見が一致し、1940年に**日独伊三国同盟**を結んだ。これらの国は世界の中心になる国という意味で**枢軸国**(すうじくこく)とよばれた

連合国の方針

〈大西洋憲章〉(1941年)

第一 **アメリカ**と**イギリス**両国は、領土あるいはいっさいの**拡張**を求めない。

第三 両国は、すべての国民が自らの政治形態を選ぶ**権利**を、尊重する。

第六 すべての国民が**恐怖**と**欠乏**から解放された自由のなかで生きる**保障**を提供する、**平和**の確立を求める。

(一部要約)

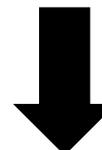


1941年

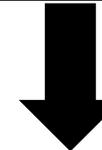
日独伊三国同盟を結んだドイツ軍が独ソ不可侵条約を破ってソ連に侵攻



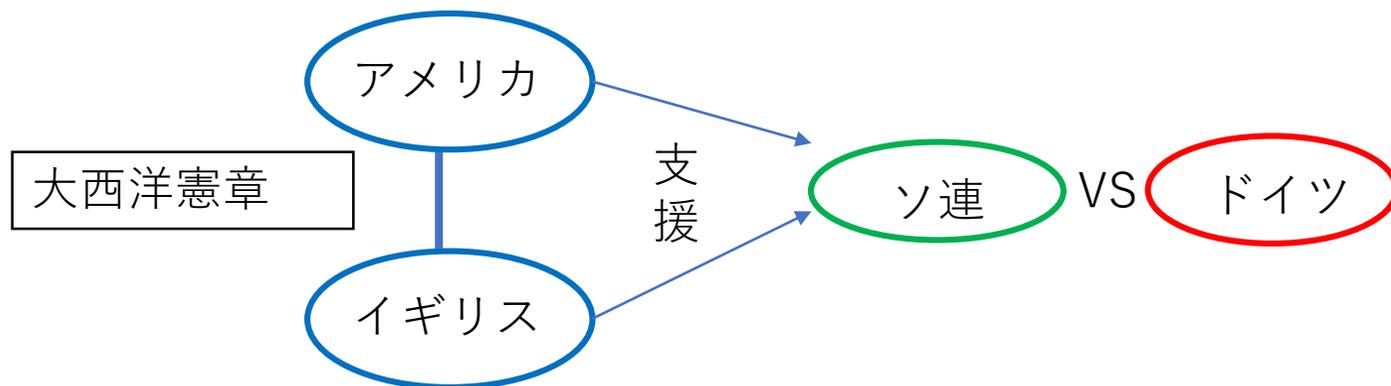
約束を守らないドイツのあまりの横暴な態度を見るに見かねてこれまで中立を守っていたアメリカがイギリスと手を組むことを大西洋の船の上で約束し、**大西洋憲章**を発表



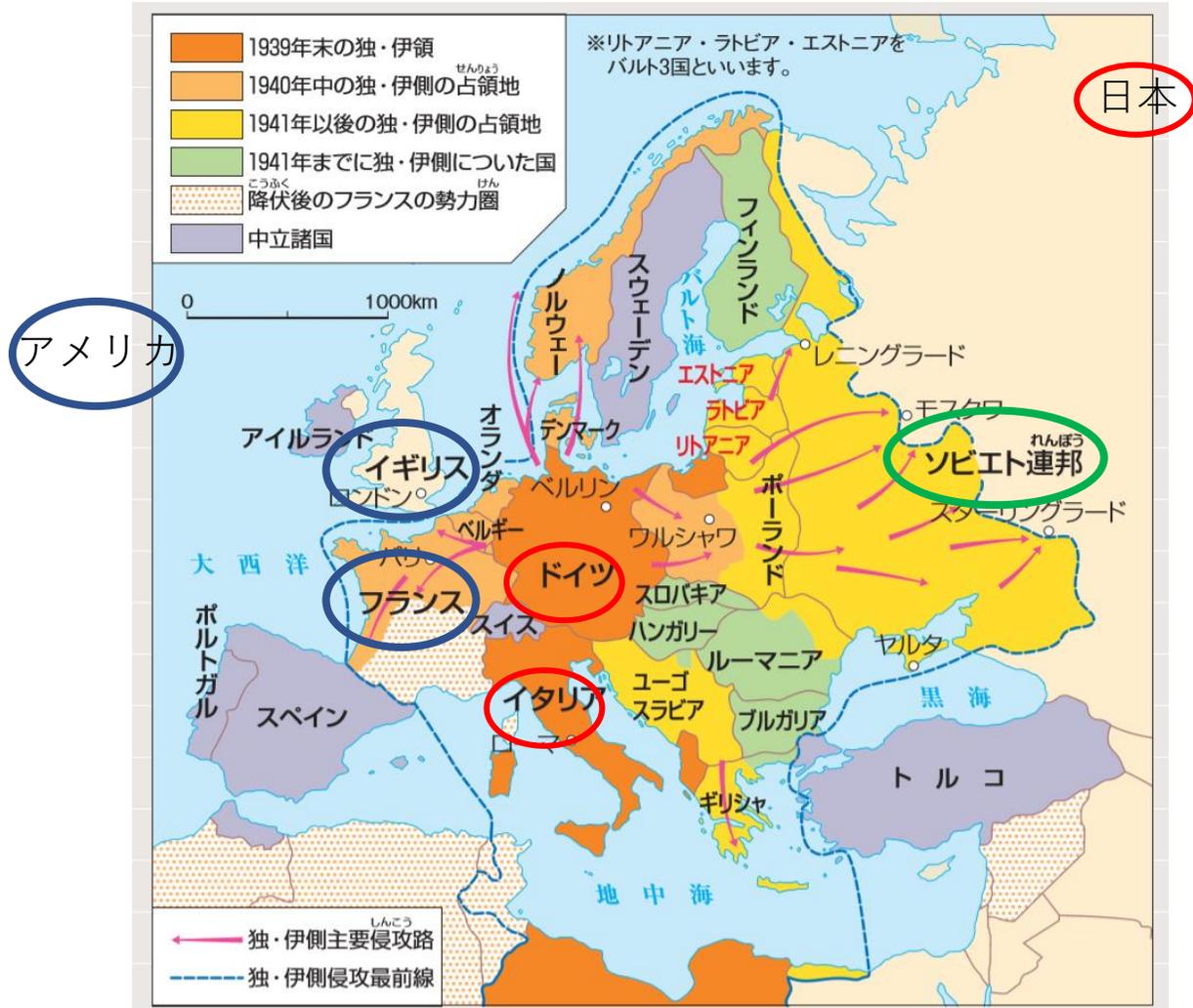
ドイツと戦うソ連に武器などを輸出して支援



打倒ファシズムをめざし、枢軸国に対抗してアメリカ・イギリスを中心に**連合国**ができた



連合国と枢軸国



- 枢軸国（日本・ドイツ・イタリア）が赤
- 連合国の中心となった国
（アメリカ・イギリス・フランス）が青
- ソ連はドイツと戦っていたので青に近いが緑